

平成28年度第1回ナセBA運営協議会議事録

1 開催日時 平成28年8月25日(木)午後15時00分～午後16時30分

2 開催場所 ナセBA2階 市立米沢図書館 郷土資料閲覧室

3 出席者

(委員)

土屋 宏 (米沢市立興譲小学校校長)

横戸 隆 (山形県立米沢工業高等学校校長)

新藤 透 (米沢女子短期大学准教授)

我妻 仁 (前市立図書館協議会会長)

吉原ゆみ子 (図書館サポーター)

菊池 修 (米沢市芸術文化協会副会長)

中嶋朱実 (米沢市芸術文化協会)

白田静雄 (リーガル店主)

田島奈央 (主婦)

計 9名

(事務局)

公益財団法人米沢上杉文化振興財団

佐藤広明 (理事長)、菅野智幸 (常務理事)、村野隆男 (館長)、青木昭博 (主幹)、江部雄一郎 (図書担当)、遠藤朋香 (図書担当)、石黒志保 (郷土資料担当)、生熊郁子 (総務)

計 8名

欠席者

(委員)

加藤公一 (米沢市立第五中学校校長)

(事務局)

永澤秋沙 (図書担当)

計 2名

4 開 会 常務理事・菅野智幸

5 あいさつ 理事長 佐藤広明

皆様には、この度ナセBA運営協議会委員への就任をご快諾いただき、改めてお礼を申し上げます。

委嘱状はあらかじめ座席に置かせていただいた。委員名簿は図書館の年度概要に掲載し、ナセBAホームページにもアップする。また、そのつど会議録を作成して、求められれば公開することになるので、これらの件もご了解願いたい。

さて、当財団はこれまで、米沢市上杉博物館と座の文化伝承館の指定管理者、そして置賜文化ホールの管理運営業務補助者として様々な業務を進めてきた。今年度はさらに、まちなか駐車場に加えて、7月1日からはこの図書館と市民ギャラリーについても当財団が指定管理者として管理運営の業務を始めた。伝国の杜とナセBAという旧と新の二つの文化複合施設は、歴史と教育、文化のまち米沢のランドマークであり、施設の機能とその波及効果には、市と市民から大変大きな期待が寄せられている。

そうした期待に応えるべく、財団としては「郷土愛を育み、教育、学術及び文化を振興し、広域交流を促進する」ことを目標に掲げて、信頼感と魅力のある事業を展開し、適正、公正な業務運営に努めることを旨として努力している。その実を上げるために、市民、利用者のご希望、ご意向をうかがう重要な機関として位置づけているのがこの運営協議会で、実施事業、施設利用等につき、財団が適切な運営を図るため、理事長の要請に応じて意見を述べるものとされている。ナセBA運営協議会委員の皆様には、忌憚のないご意見・ご提言を頂戴いただきたい。

今日は最初に今年度のナセBA事業について報告し、そのあと、懸案の二つのテーマについて皆様それぞれのお立場からのご助言とご提言を頂戴したい。

一つ目のテーマは「ナセBAに望むこと」。図書館は広く明るいスペースで15万冊の開架図書を楽しむことができ、快適な空間で学習を進めることもできる。先人顕彰コーナーでは昨日まで伊東忠太展を開催し、明日からは城下絵図展がオープンする。

広いスペースを確保した1階の市民ギャラリーでは、第一弾として「よねざわアートNOW」展、第二弾は「米沢の美術作家たち」展を開催して、市民の公募作品と郷土作家の作品をお楽しみいただいた。オープンギャラリーには、博物館所蔵の著名な郷土の物故作家の作品を展示している。開館してまもなく2か月になるが、これまでのところ大変多くの方々にご来館をいただき、まずは好評を博しているものと認識している。

市の教育委員会がまとめた「米沢市新文化複合施設整備事業基本構想」によると、図書館は「歴史に学び、今を生き、未来を創る市民の図書館」を目指し、市民ギャラリーは、「芸術文化を高め、様々な芸術文化に親しみ、活気あふれる市民の芸術文化活動の拠点」を目指すとしている。これらを念頭に置いて、ナセBAに期待することについてお話をいただきたい。

二つ目は、『「ナセBA」と「伝国の杜」の連携について』。このナセBAと伝国の杜とは、新旧の文化複合施設として兄弟館ともいえる文化施設であり、生涯学習施設でもある。その両方を管理する当財団としては、それぞれの機能、役割を高めて市民の期待に応えるということを第一に考えながらも、同時に、たくさんの方々に利用していただく使命もある。

そのために、伝国の杜もナセBAもそれぞれの施設の中での連携事業は進めているが、展示資料の貸借、博物館が持っている美術作品のナセBAでの展示、出版物の相互販売など動き始めたばかり。8月29日からは、小中高大の学生を対象として、図書館利用者カードの提示によって博物館の企画展常設展を問わず、団体割引料金でご覧いただけるという事業を3か月の試行事業として行う予定。そのほか、図書館に博物館の展示に合わせた図書コーナーを設けることも考えているが、皆様からも二つの施設間を人が行き来するような連携事業のアイデアを頂戴したい。

6 委嘱状交付

机上配布にて委嘱状交付。

7 協議会の説明

菅野常務理事よりナセBA運営協議会運営要綱の説明。

会長及び副会長はそれぞれ1名。ナセBA運営協議会運営要綱第5条により委員の互選によってこの後選出する。

8 委員自己紹介

9 職員紹介

菅野常務理事、村野館長より財団職員紹介。

10 会長及び副会長選出

事務局より、会長及び副会長の選出については、ナセBA運営協議会運営要綱第5条第2項により委員の互選により選出していただく旨諮ったところ、事務局に一任され、会長に我妻仁氏、副会長に新藤透氏を指名し選出。

11 議事

運営協議会要綱第6条に基づき、我妻仁会長が議長として議事を進行。

- (1) 平成28年度 ナセBAの事業について（報告）
- (2) ナセBAに望むこと
- (3) 「ナセBA」と「伝国の杜」の連携について

(議長)

非常に多くの方が期待されているこのナセBAの記念すべき第一回目で会長という非常に重い責任を負う立場になり、ぜひ副会長、また委員の皆様方のご協力を得て、この協議会が要綱にあるような主旨を達成できるように運営していけたらと思う。よろしく願います。

(事務局)

資料：市立米沢図書館 2016 事業、9 月以降の事業、よねざわ市民ギャラリー 2016 事業について概略説明

テーマ1とテーマ2については理事長があいさつの中で申し上げたとおり。忌憚のないご意見やご要望をお聞きしたい。

(土屋委員)

米沢の小中学生もたくさん利用させていただいている。学校としてもたくさん利用させていただきたいが、例えば興讓小学校だと、学区の中にあるので家に帰ったらすぐナセBAに行っていていいと言っているが、隣の北部小学校の場合だと先生方の間で問題になり、今のところ保護者同伴となっている。利用状況で、子どもたちだけで来ているのか、保護者と来ているのか、特に平日の場合についてどういった状況なのか、見て気になることがあったら教えていただきたい。

(事務局)

北部小学校の話は初めて聞いた。

色分けがないのでどこの小学校か分からないが、興讓小学校はほとんど毎日来ており、南部小学校もかなり使っている。保護者と一緒に来る小学生もたくさんおり、それが北部小学校かどうかの判断はできないので、実態は把握できない。開館後いきなり夏休みだったので、夏休み期間中は子供だけというのも興讓小学校以外のグループもかなり来ていた。保護者と必ず一緒に来ているということはなかったように見受けられた。夏休みが明けてからは日がないのでまだ確認できない。今後注意して見てみる。

(土屋委員)

なるだけ利用できる方向で考えていきたい。

(議長)

知り合いの小学生の親御さんの話を聞いたら、お子さんが小学生で今まで図書館カードを持っていなかったのが、申込書を家に持って行って、家の住所などを書いて持って来たら、身分証明書がないとだめだと言われた。小学校で身分証明書という保険証だが、それを知らなかったのが、申込書をせっかく持ってきたのにその時は利用できなかった。そのあたりを徹底してもらえれば。

(事務局)

図書館職員が申込書を渡す時には必ず身分証明書が必要だと言っているのが、他か

らの情報で対応されたのではないか。通常でもゼンリンの地図を使って住所を確認したり、少しゆるやかにはしているが、基本的にはその子が本人であるということが確認できないとカードは発行できない。学校の先生が引率で連れてきて、持っていない子だけ作りたいという時にはそのまま作らせていただいている。

(土屋委員)

ナセBAと伝国の連携について。周辺部の子どもたちはなかなかバス等がないと来られない。昨年度からプラネタリウムについては上郷小学校のスクールバスを利用してそれぞれ周辺の小学校から来られるような配慮をしている。元々は、ナセBAができたならスクールバスを使って伝国の杜とナセBAとプラネタリウムの3つの施設を巡りながら学習を深められたらという発想で始めた。町場の子どもたちは自分で来られるが、周辺部は交通機関を準備してやらないと保護者に頼るしかない。校長会のほうでも工夫していきたいので、相談にのっていただきたい。

(新藤委員)

開館当初の出だしの事業は、小中学生と高齢層に対象が集中していて、おそらく中高生があまり来ていない。小学生は結構読書をしているが、中高生は統計的にも低い。今後、中高生を読書に誘うというイベントを積極的に展開していったほうが良いのではないか。

長期的な話だと、図書館なら例えばビジネス支援や、高齢者サービス、障がい者サービスなど。図書館は0歳から100歳の方まで、ありとあらゆる年齢層すべてが平等に利用できる唯一の公共機関なので、もう少し中高校生や一般の人を対象としたサービスを考えていただくと、色んな年齢の人が訪れるようになる。特に高齢者サービスに関しては、図書館は平日に開館すると高齢者の利用がたくさんあるので、どこの図書館もあまり実施していない。歴史的な講座だと来ると思うが男性が多くなってしまいますので、女性向けの健康のサービスなどを考えていただくと、利用者層が広がると感じる。

また連携ということについては、最近MLA（ミュージアム、ライブラリー、アーカイヴ）連携というものがあり、米沢はMLで連携できる。例えばレファレンスサービスについて、米沢の上杉関係の専門的なレファレンスが全国から図書館に寄せられると思う。米沢では同じ財団が図書館と博物館の指定管理者をやっているので、図書館で分からないレファレンスは博物館に、博物館で分からないことは図書館に聞くというように、調査の連携を密にすれば、かなり高度なレファレンス対応ができるのではないか。展示資料の貸借をされるのであれば、そういったところも将来的にお考えなのか、聞かせていただきたい。

(事務局)

高校生はかなりの数が勉強しにきている。他の公共図書館だと高校生の自習を認めないところもあるが、ここでは席が空いていれば使って良いというスタンス。夏休み

は高校生で閲覧席も埋まっていた。高校の試験日が重なると間違いなく座席が不足するので、今後座席の優先権を考えていくつもり。

中学生の来館誘導はなかなか難しい。小中高校それぞれの図書館部会と話を始めているが、何か企画をしていかないと。小学校と高校は部会と話をしているが、中学校とはまだ未接触。米沢の小中学校は専任の司書はおられないので、一緒にやろうとしても向こうの手が回らないというのが実情。

図書館全体としては、現在、若干子どもに手厚いかなという位置づけで動いている。高齢者に関しても特老さんがかなり来館しておられる。(施設見学の際に) 事前に一階で簡単にご説明させていただくなど好評をいただいている、今後も増えていくのではないかと。高齢者向けの読み聞かせ、読書会など、種まきをしながら輪を広げていきたい。自動車文庫もかなりの数を回っている、連携した事業を考えていきたい。

レファレンスは図書館、博物館とも相当な数にのぼる。もちろん連携はしており、お互いに情報交換しながらそれぞれにデータベース化しているので、その蓄積を考えていきたい。

(吉原委員)

ボランティアの丸山ちはや先生のお話を聞いた。地元の商店街と図書館の連携のツールとして、事業というものを考えられると思う。お母さんと子どもたちを集めて、商店街のアーケードの下で大きな絵を描き、それを3階から飾って見たら良いのではないかなど、色々な想像をした。

それを実現するためには、どういう提案の仕方が具体的に実現性があるのか。例えば伝国の杜の事業で、展示する場所は図書館やギャラリーにするなど。伝国の杜には手作りコーナーがあり、観光客が結構来て子どもと一緒に手作りをしていく。伝国で作ったものをおはなしのへやに飾ったり、伝国でやっていることがこちらの図書館でも目に入ってくると統一感が出るのではないかと。

私は本の整理、修繕をしたいと思ってサポーターに登録している。事業にはかかわっていないが、図書館に足を運ぶたびにとにかく人が多いと感じる。やってくる人の目的が様々、多岐にわたっている。涼みに来たり、アミューズメントパークとして来たりするような環境で、今図書館で、何を求められていて、どんな事業を興せば良いのかという具体的なことまではまとまっていない。

(菊池委員)

ギャラリー集客が圧倒的に今までより多い、展覧会も個展が増えることを期待している。若手作家に声をかけようと思っている。

団体展はこれからもやっていけると思うが、高齢化で天井が高くなった分、作業等で厄介な部分が出てきている。高齢者がどんどんやめていくということも考えられるが、作業ボランティアなどをつのって協力してやっていきたい。

伝国の杜には物故作家のたくさんの作品が収蔵されている。ようやくお披露目でき

る部屋ができたので、収蔵品を見る機会を増やしてほしい。11人展のような機会を増やしてほしい。

絵画、彫刻に限らずその他の分野についても、ますむらひろしの漫画展など、物故者だけではなくて現代のものや、現代と物故者の作家がコラボできるような企画をすれば、物故者の作品も多く見ることができる。私たちも提案するので、ぜひ企画していただきたい。

(中嶋委員)

刺繍の教室があって遅くなった。

芸術文化協会の展示部門の委員もさせていただいている。まちなかギャラリーという事業で8年ほど活動している。ナセBAオープンの時にも、中心市街地活性化連絡協議会の企画に参加した。オープンして人が来るか心配もあったが、たくさんの方が来てくださっている。特に若い学生の姿が見られるというのは本当に幸せ。子どもたちやお孫さん連れなどの姿が本当にたくさん見られたので、とても期待している。

今までの展示についても、有料でも良いんじゃないかという声もだいぶ聞かれた。地域の皆さんは維持費は大丈夫なのかという心配もされているが、米沢は文化の町という雰囲気をもっと広めていきたい。9月22日にも、「まちなかアート市場」というアートをテーマにしたイベントをする予定。市民ギャラリーがあるということは大事なことだと思うので、色々な人にアートやものづくりに親しんでもらうということをしていきたい。ワークショップなどもたくさんしていきたいので、ナセBAともそういうところで連携したり紹介したりしていけるのかなと思う。博物館にもたくさん素晴らしい作品が収蔵されているので、市民ギャラリーで展示していただけるのを心待ちにしている。

(議長)

中嶋さんの話の中に出てきた入場料とは、ギャラリーを借りた団体が展示の際に入場料を取るということか。

(事務局)

中嶋さんがおっしゃられたのは11人展のこと。財団が主催したものへの入場料なので、開館記念の意味合いも込めて入場料はとらなかった。ただし一般の方が借りられるときは2倍の借り賃で入場料がとれる。物販も可能。ますむらひろしさんの原画展というのを一周年記念で計画しているので、そこで初めて入場料を取ることになるかもしれない。

(白田委員)

商店街の観点からいうと、すごく高校生が増えた。今までと違う町になった。それにあわせて、ナセBA応援隊としては開館前にフラワーポットを置いたりしたが、もう少しグレードアップしたものも考えていく。まだまだこれから米沢市民が増えることを願ってやっていきたい。

(議長)

高校生を含めて非常に人が増えて活気が出てきたという話だが。

(白田委員)

今の場所に32年いるが、開店したとき女子高校生がたくさん来ていた。それが親になり、図書館ができたことにより思い出してきてくれたということがすごくうれしくて、店も改装した。あと5年は頑張る。呼応してやっていきたい。

(横戸委員)

米沢地区の校長会で話題になった。高校によってはクーラーがない。学習室は静かで環境も良くて、迷惑をかけているのではないか。米沢東高や興譲館をはじめ、ますます利用が増えるのでは。

どうしても離れた場所にある学校については難しい。探求型学習というのが高校で行われており、調べ学習が今後増えていくが、郷土を知る、例えば米織の記述についてなど、この館でしか見られない蔵書や、調べるための資料があると思う。インターネット関係の検索も充実しているが、ここに何があるのかはどうすれば簡単にわかるのか。その仕組みはどのようにすれば良いのか。デジタルライブラリーなどを簡単に見られるしくみを学校のホームページとリンクさせることも一つの方法だと思う。

展示ギャラリーを利用したいという声も生徒たちの間であがった。絵画や写真など、この館を生徒に知らせるという意味でも、高校生たちが展示することによって、館の素晴らしさを改めて知ることができ、足を運ばせる手段になるのではないか。

(事務局)

先日、興譲館生が環境デザインというテーマで館内でスケッチした。今後も利用は増えると思う。

図書館に何があるのかは、まずHPで検索していただくことと、ぜひ足を運んでいただきたい。手に取って見られる本が15万冊に増えたので、実際に体験してもらいたいと思う。

デジタルライブラリーも、基本的に学校のパソコンを使って見てもらいたい。

ギャラリーはぜひ借りていただきたい。年度内は埋まっているが、空いてさえいれば高校生でも借りられるので、顧問の先生と相談して欲しい。

(横戸委員)

ギャラリーを利用する際の制約、条件などはあるか。

(事務局)

基本的にはギャラリーなので、美術関係の作品の展示となる。写真ももちろんOK。

(田島委員)

色々な方が利用していて驚いている。利用者も図書館に来るのを楽しみにしているのだと思う。ギャラリーでも、博物館でお金を払ってみるような展示(11人展)が無料で見られるとのことで良い機会だった。もっと多くの方にお知らせできれば、

もっとたくさんの方に来てもらえるのではないかと。

博物館で監視や案内の業務をしていて、観光客に見どころを聞かれて、上杉神社などを紹介しているが、ナセBAも展示があるときにはご案内して連携をとりたい。

いろんな方が図書館を利用できるようにということで、今回もたくさんの方の事業をしているが、お子さん対象のものが多く、また手話のおはなしかいなど、障がい者の方対象のイベントなどがあると面白い。障がいのない方も一緒に交流できるイベントがあると良いと思う。町の中心地にナセBAが位置しているが、無料ではなくても、週に何回か高齢者の方も気軽に来られるような有料バスなどがあると助かる。

(議長)

一通りお伺いしましたが、改めて別な観点からの要望やご意見などございますか。

(新藤委員)

田島委員から障がい者サービスのお話があったが、録音室、対面朗読室が開設されたが、対面朗読等の障がい者サービスを行っているということか。

(事務局)

行える部屋を用意しているというだけで、まだ使用していない。

(新藤委員)

新しく図書館をつくとどこにもあるが、気が付くと倉庫になっているパターンが多い。職員の方も、年月が経つと分からなくなってしまうことが多いので、ぜひアピールなどしてもらえると、利用者の方も現れてくるのではないかと。

(事務局)

サポーターの活動も含め、今後具体的な検討を進めたい。

(議長)

非常に開架図書が増えたが、小説のインデックスは表示されているか。

(事務局)

児童コーナーにはあるが、一般の小説については検討している。 ※設置済。

(議長)

ギャラリーの入場者カウントはどうするのか。

(事務局)

基本的には主催者でチェックをするのが原則。センサーは建物と図書館の入り口と学習室にしかない。図書館の出入りの数と学習室を足して、図書館の人数としている。

7月ひと月で5万2千数百、現在約8万人の利用者がある。

(4) その他

(事務局)

第2回ナセBA運営協議会は来年1月、休館日にあたる第四木曜日の1月26日に開催する予定。時間は本日と同時刻に開催予定。近くなったらまたご連絡する。

1 2 閉 会 常務理事・菅野智幸

1 3 閉会後施設内見学

案内 館長 村野隆男